

六月七日、JKSK結
 結プロジェクトの成果報
 告会が都内で開催されま
 した。関係者が集まり、
 この二年間を振り返ると
 ともに、今後について語
 り合いました。写真。二
 年間に被災地で、首都圏
 と地元の人々が話し合う
 車座交流会は五回。知恵
 を出し合って生み出され
 た事業は十四にもなりま
 した。

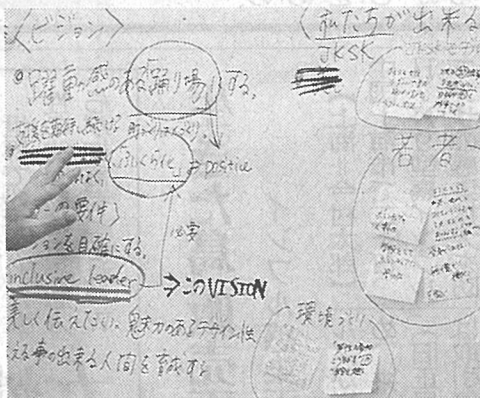
アンケートで車座につ
 いての評価をたずねたと
 ころ、「大いに成果をあ
 げている」が52%と高い
 評価を得ることができま
 した。一方、被災地で直
 面している課題として、
 「被災者や支援者・子ど

法人
 支
 援
 ネット
 文化
 事務
 局
 支
 援
 課
 支
 援
 係
 司
 真
 弓
 さん



東北 復興日記

45



自立への事業目指す

もたちへのメンタルヘル
 ス」や、「地域に根差し
 たビジネスの継続的な支
 援」などが挙げられまし
 た。長期になるほど、課
 題も支援の内容も変化し
 いわき市内から市外に広

がり、また昨秋に収穫さ
 れた綿はTシャツに変身
 していました。震災前よ
 り親交のあったいわき市
 のNPO法人ザ・ピープ
 ルの吉田理事長に第一回
 車座に参加を呼び掛け、
 そこでのさまざまな出会
 いが事業の誕生につなが
 ったことを思い出し、感
 無量でした。まさしく、
 このTシャツはプロジェ
 クトのネーミング通り
 に、人と人の結びあいか
 ら生まれました。

今後、販路などが確保
 されれば、被災地の自立
 に向けた復興事業のモデ

この連載は、東京の
 NPO法人「女子教育
 奨励会」と、被災地の
 女性たちが協力して復
 興に取り組む「結結プ
 ロジェクト」の協力を
 得て、掲載しています。